MARCH 2015

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
NEWS LETTER
Documentation No.19
ドキュメンテーション

８期生の皆さん：思い出の図書館にて

■ ドキュメンテーション学科８期生の卒業を祝して！

８期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。鶴見大学で過ごした時間は、如何でしたか。学業に趣味に充実した学生生活を過ごしたことと思います。沢山の楽しい思い出を心に刻み、多くの友人を得たことでしょう。

皆さんが入学されたのは 2011 年４月、直前の３月１１日に未曽有の地震と大津波による東日本大震災がありました。福島から避難されている方々の帰還や原発問題等、未だに多くの課題が残されています。本来ならば入学式は一堂に会して全学で挙行しますが、2011 年は学科ごとに分かれて開式となりました。電力不足から、大学の施設や設備の利用制限や節電が呼び掛けられました。クーラーの使用が制限されましたので、特に夏の暑い時期の教室での授業は大変でした。今までの当たり前の生活が過ごせることの有り難さを感じた年でもありました。

この４年の間で、ドキュメンテーション学科は国際交流が大きく前進しました。2011 年に台湾の世新大学と、2013 年に北京大学と中山大学との学術交流協定を締結し、国際インターンシップが開始されました。特別実習Ⅱでは毎年本学の学生が世新大学に研修で訪問し、世新大学・北京大学・中山大学の学生が本学に研修に訪れました。国際インターンシップの授業では、外国の学生と英語でお互いを紹介し、国際交流を深めました。また、創設以来、初めて、２名の卒業生が本学大学院文学研究科へ進学しました。大学院生は、オリエンテーションで大学院の広報や図書館で学習アドバイザーを務め、活躍しています。

本年度、ドキュメンテーション学科は創設１０周年を迎えました。１１月に記念講演会祝賀会が開催され、多くの卒業生やお世話になった多くの先生方が来学されました。創立２０年へ、卒業生、在学生、そして教職員一同が新たな目標に向け躍進していけるよう頑張っていきたいと思います。

ドキュメンテーション学科 主任
Hiroyuki Tsunoda　角田 裕之

平成 26 年度　卒業論文題目

長塚隆研究室

加藤　優岐　楽譜データベースの作成
神澤沙央里　「最新ニュース情報」の入手方法と今後の電子新聞のあり方
齋藤　鷹一　オートバイ購入支援データベースの作成
鈴木　麻美　静岡県富士市の観光データベースの構築
中津　穂高　デジタル教科書のコメント分の内容分析
福田　航也　野球のスコアブックのデータ解析
吉川　隼矢　投球技術向上支援データベースの構築

伊倉史人研究室

天野　楓子　巌谷小波の日本昔噺の研究　―『日本昔噺』『日本お伽噺』を中心に―
石川友紀子　松雲公御夜話の研究　―比較及び考察―
今井　　亮　土佐日記注釈書の本文に関する研究
島田　哲弥　鶴見大学図書館蔵『新後撰和歌集』について
徳嶺　紗瑛　江戸期色彩関係書籍の調査及び研究

大矢一志研究室

藤井　牧人　市民参加による地域運営の研究　―茅ヶ崎市市民参加条例の事例から―
佐々木俊弥　新しいコミュニティの場としてのコンビニエンスストアの研究
真田　祐子　落語資料の研究　―音源を元にした資料「牡丹灯籠」の作成―
下條　美穂　データ階層の異なる情報に対応したデータシステムの研究
―材料を感情表現と対応させるカクテルデータベースの作成―
鈴木　美佳　パーソナル関係で生じる不安を解消するコミュニケーション手段の研究
―Arduino を使ったプロトタイプの作成―

角田裕之研究室

赤木　　凌　アルコール飲料に関する目録作成
安保　風里　大学ランキングの分析に基づく図書館サービス向上の研究
内田まどか　グリム童話の異版における内容変化の調査
海老塚真純　図書館ホームページにおけるスマートフォン対応ページの構造解析
片野　巨斗　講談社出版文化賞から見るブックデザインの評価
小林百合子　OPAC 検索におけるシリーズ書籍タイトルの容易なシステムの研究
里　奈緒美　鶴見大学図書館蔵書のディズニーアニメーション映像のキャスト目録と分析
佐藤　裕之　日本武道館における音楽イベント目録の作成
新町　祐介　新聞記事から見る公共図書館における電子書籍利用の問題点の年次変化調査
星野　千晶　公共図書館における児童コーナーの改善提案　川崎市川崎図書館のよりよい児童コーナーを目指して

久保木秀夫研究室

瀬間　愛華　『枕草子』の伝本に関する研究
髙橋　裕美　鶴見大学図書館蔵奈良絵本『うつほ物語』の調査・研究
高畑　純平　怪談の分類に関する調査・研究
釜田　祐子　絵短冊の研究
小池　春菜　妖怪の変遷に関する研究
鈴木　佑喜　太宰治『お伽草紙』と昔話との比較研究
塚本真百合　鶴見大学図書館所蔵『古今和歌集』巻八・巻十残欠写本の調査研究
山崎　知華　当用漢字・常用漢字等の影響例に関する調査研究
（匿名）　紙芝居の調査研究

元木章博研究室

北村　光香　経年的変化から見た市区町村立図書館における Web アクセシビリティの評価
黒川　萌香　しりとりを活用した点字学習支援システムの開発と運用　―継続的な学習を促す試み―
古川　拓弥　研究室内写真管理・共有システムにおける登録補助機能の開発と評価
佐藤亜由美　オノマトペの調査に基づくマンガ「るろうに剣心」の一考察
―経年的変化から見るオノマトペと内容の相関―
須山加奈子　国立大学図書館 Web ページにおける障害者サービスの現状調査及び公共図書館との比較
中村　美咲　研究室内蔵書探索・貸借システムと本棚の連係機能の開発と評価
村瀬　愛美　資料探索の幅を広げる体験型学習支援システムの開発と評価
柳澤　靖夫　鏡像関係の理解に向けた点字学習支援システムの開発と評価

原田智子研究室

北岡　由衣　日本の公共図書館の変遷　―『日本の図書館：統計と名簿』による分析―
阪上　翼　IC タグ導入による公共図書館業務の現状と可能性
坂本　汐里　公立図書館における指定管理者制度導入後の現状調査
田中　真美　移動図書館の実施状況の変遷と活動事例
土岐　飛鳥　公立図書館における Twitter 広報の現状と課題
冨田　尚之　CiNii Articles における原報へのアクセシビリティ
内藤　貴茂　専門図書館協議会に加盟する神奈川県の図書館に関する調査
橋本早緒梨　日本の漫画文化と公共図書館における漫画の所蔵状況
原田　充　インフォプロに求められる専門性に関する調査
堀越　玲那　公共図書館におけるおはなし会と子育て支援サービス
三原　知也　検索エンジンの特徴と検索機能の比較

❀ 2011 年入学式後、満開の桜の木の下にて　❀ 2015 年 2 月、同じ場所にて

原田智子研究室

原田研究室では、図書館に関する調査やデータ分析を行っています。最初は２月頃から研究テーマを決めるために活動を始めます。４年生になった後は夏休み前までには序論作成と執筆に必要な情報収集を行います。最初から最後まで、論文の書き方をとても細かく指導していただくことができます。また就職に関しても親身に相談に乗って頂けます。◆夏休みには角田研究室と一緒にゼミ合宿で草津にいき、中間発表と名所を訪ね、日頃の疲れをいやすと共に、親睦を深めることができました。◆今年度で原田ゼミは無くなってしまいますが、大変お世話になりました。この場を借りて感謝を申し上げます。（阪上翼）

角田裕之研究室

角田ゼミは和気あいあいとした、仲の良いゼミです。図書館学コースのゼミではありますが、角田先生ご指導のもと、自分の興味があることやテーマを題目として、自分のペースで卒業論文を執筆することができます。また、夏には図書館学コースのゼミで合同合宿があり、卒業論文の中間発表会を行う機会があります。そのため、時には自分に厳しく、執筆作業を行わないと、卒業論文の完成度や進捗等に問題が起きる場合があるため、注意が必要です。（片野巨斗）

平成 26 年度　研究室紹介

長塚隆研究室

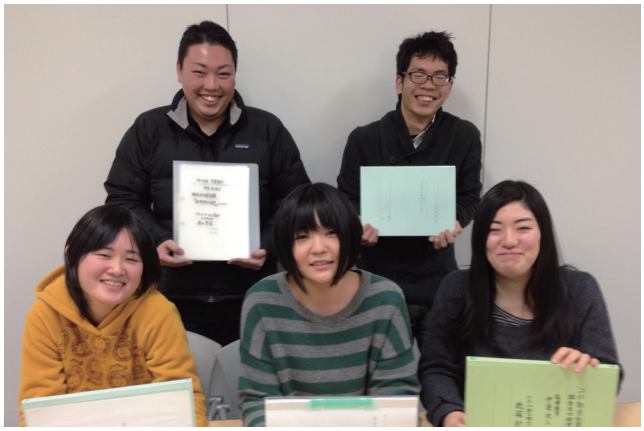
卒業論文作成は、私の場合、想像していた以上に大変でとても苦労しました。その一因として自分の「ギリギリにならないとエンジンのかかりが悪い」という性格には苦労させられました。考えれば考えるほどわからなくなったり、何度も行き詰ったりもしました。ですが、先生や同じゼミの仲間などからアドバイスを頂けたので何とか終えることができました。もう少し長期的な計画を立てる必要があったと思います。この卒論を書いていく課程で、自分のいい加減さや弱さを改めて思い知らされることになり、これはとても貴重な経験であったと思います。◆苦労もしましたが、同じゼミの個性豊かな仲間達や先生がいたことにより、思っていた以上に楽しく過ごすことができました。夏のゼミ合宿も楽しかったです。那須にある大学の施設を利用したのですが、自然豊かで落ち着いて過ごすことができました。◆卒論を書き終えた今、卒論は自分を人間的に成長させる、非常にいい機会だったと感じています。（中津穂高）

元木章博研究室

元木研究室は、情報に関連する教材やシステムの開発、社会福祉、サブカルチャー等、幅広いテーマを卒業論文として扱っています。1年を通して忙しく活動するため、スケジュール感を身に付けられます。今年度も、写真管理共有システムから漫画のオノマトペについての調査まで、様々な研究が行われました。また、縦横の人の繋がりも大事にしているため、質問や相談に来る下級生だけでなくOB・OGの先輩方も訪れる、常に賑やかな研究室です。興味がある方は、ぜひ一度元木研究室へお越しください。（柳澤靖夫）

伊倉史人研究室

ゼミは発表を中心に行います。調べてきたことを発表することで、自分でも調べたこと、考えたことが整理できる上、仲間から質問受けることで新しいことを発見することもできました。◆合宿では1泊2日で東北へ行き、公共図書館を見学した他、毛越寺、中尊寺などの寺院等にも訪れました。また、仙台城跡から市内を眺めたり、フェリーで松島を廻ったりもしました。◆ゼミの時間だけでは知ることができない文化や、仲間や先生の新たな一面を知ることができた素敵な旅でした。（天野楓子）



久保木秀夫研究室

久保木ゼミでは、主に古い資料について研究します。その範囲は幅広く、昔の物語や絵画など、自分が興味あることを心ゆくまで研究することができます。前期はゼミ内での発表、後期は先生との個人面談で様々なアドバイスや意見をもらい、自分の研究の足りない部分を知ることで、より深く調査を進められます。最後に調査結果をまとめ、結論を出すのは難しいですが、自分の意見に責任を持って言い切ることが大切です。（小池春菜）

大矢一志研究室

私は、卒業論文をアートにも通用する作品にしたいと考えていました。また、題目を決めるときは、4年間、文学部の中のドキュメンテーション学科、という特別な環境にいたからこそ書ける論文にしようと思っていました。アート的な面で作品を考えるのはとても楽しいし、それに関する知識を図書館などで探すのも苦ではありませんでした。◆しかし、論文では内容を相手に分かるように伝えなくてはならないので、同じゼミの仲間や先生に自分の考えを伝えることがなにより大変でした。◆卒業論文に追われているときは他の事を考える余裕はありませんでしたが，終わってみると充実した達成感を得ることができたと思います。（鈴木美佳）

学生の声

一年目を振り返って

Kaho Oda　小田 佳歩

大学での１年間を振り返って、私は自分の世界が広がったように感じました。高校までとは全く違う人や風景に囲まれての大学生活は、最初のオリエンテーションの時点では、まだ不安しかありませんでした。まず何よりも心配だったのは、友人が作れるか、ということでした。うれしいことに、その心配は必要ありませんでしたが、あの時の気持ちは今でも覚えています。◆大学生活が始まってからは、もっと大きな不安と楽しさがあふれていました。高校までの生活では考えられないほど、たくさんの人たちがいて、そんな人たちと話しているうちに、自分の中の考え方が狭いものであったということを感じました。友人も増え、部活動をするようになってからは、もっと自分の世界が広くなったように感じています。１年間で、これだけ濃密な時間を過ごすことができ、鶴見大学に入学して良かったな、と感じることのできる１年間でした。

Rana Ohira　大平 良菜

ドキュメンテーション学科に入って、想像以上に大変なことも多いけれど、初めて知ることや学ぶこともたくさんあって、新しい発見がいっぱいあります。ネットワーク概論や情報機器教育論など、パソコンやそれに関することを学ぶ機会も多く、文系の私には苦手な計算も出てきて、不安もあります。ですが、色々な授業がどこかで関係していて、それがつながった時は、そういうことだったのか！とスッキリします。また、今までは利用者だった図書館の、運営やシステムなど、知らなかったことがいっぱいで、とても楽しいです。◆来年からは、概論が演習になって、難しいことも多いと思うけれど、実際に目録を作ったりするのは楽しみだし、がんばろうと思います。

Ayumi Togashi　富樫 あゆみ

私は、高校生の時に出会った図書室の先生のおかげで、司書資格を取ろうと思い、ドキュメンテーション学科を選びました。◆実際に入ってみて、慣れないことが多くありました。パソコンを使った授業は、タイピングがうまくできなかったり、図書館学では、知らない言葉がたくさん出てきたりしました。テキストを受け取った時は、こんなに覚えられない、と思いましたが、何とか、友達や先生のおかげで、少しずつこなしていきました。◆興味が出たのは書誌学の授業です。私は小学生の時から詩吟を習っていて、その関係で、書物文化論と古典基礎を取りました。古くからある日本の物語を読み解いたり、くずし字が少しでも読めるようになったりして、うれしく思いました。◆これからどの分野に進むか、考えてみることにします。

Yuko Hoshino　星野 ゆう子

今年１年は挑戦の連続だったと思う。まず、電車通学が最初の挑戦だ。高校の頃は徒歩通学だったため、4月から始まった電車通学は緊張の連続だった。しかし最近は電車通学にも慣れ、１時間半に及ぶ車内の時間は、貴重な読書や睡眠の時間となっている。◆次の挑戦は、様々なところに出かけるようになったことだ。大学生になってから、時間が空くことも増え、また大学の立地上、東京や横浜に近くもある。行ったこともない土地に行くのは、とても楽しいなと思う。◆大学に入学してから、時間の使い方を意識するようになった。授業と授業の間に空き時間ができるというのは、高校ではあり得なかったことだ。そのような空き時間を有効に使い、課題をこなしたいと思っているのだが、なかなか難しい。これからも時間の使い方を考え、有効に過ごしたいと思う。それが、これからの挑戦だ。

コース選択

私の進みたいコース

Shunsuke Saito　斉藤 駿涼

私は図書館学コースに進みたいと考えている。情報サービス演習という授業でレファレンスサービスの演習を行って、図書館のことに興味がわいたからである。

前期の情報サービス演習Ⅰは、一人ひとりに与えられたレファレンス演習問題を、図書館にある図書のみを使って解いていくという授業であった。インターネットを使わずに図書のみで調べることは、ほとんどないので、調べていく過程での図書との出会い出合いがとても楽しく、図書に関して興味をもった。図書の配架など、図書館の細かいシステムも知ることができた。

後期の情報サービス演習Ⅱは、逆にインターネットのみを使って、レファレンス演習問題を解いていくという授業であった。普段使わないような専門的なサイトを多く使うことができた。普段よく使うサイトでも、検索方法によって検索結果が変わってくるということを知ることができた。検索のスキルが身につくとともに、とても興味がわいた。

図書館学コースに進んでからは、図書館のレファレンスサービスや、その他の特徴的なサービスなどをもっと深く知りたいと思った。レファレンスサービスの改善点や、サービスと利用者との関係性についても考えていきたい。まだまだ改善すべきサービスはあると思うし、サービスを充実させることで、図書館を利用してくれる人も増えていくと思う。

将来に向けての選択

Chihiro Hamada　浜田 千尋

私は３年次のコース選択について、書誌学コースに進むか、情報学コースに進むかで悩んでいる。

書誌学コースでは古典籍を主に取り扱う。その中で、私はくずし字に興味を持った。昔の文字を少しずつ読み解いていくことが謎解きをしているようで、とても楽しく感じられたからである。同時に他にも様々な文学作品を読んでみたいという思いから、書誌学コースに進んでみたいという気持ちがある。

しかし、情報学コースも私にとって、とても興味をひかれるコースだ。私は子供の頃に叔母にパソコンを習っていて、Word の基本的な操作を教えられていた。加えて親戚にはシステムエンジニアなど、コンピューター系の職業に就いている人が多く、会うたびにそういった話をしてくれていたので、いつの間にかコンピューターを扱うことに憧れていた。そもそもドキュメンテーション学科を選んだのも、情報学コースに興味があったからなので、このコースに進みたいという思いは今でもある。

今はこの２コースのどちらに進むか考えている途中で、両親にも相談している。２つのコースの両方が私のやりたいことであるので、よく考えて、慎重に選ぼうと思っている。

大学院便り

「濃い」院生生活

Saki Kanemaru　金丸 早希

院生生活は「濃い」、この一言に尽きる。大学院の授業は基本的に週に７コマ、週４回、１日２コマある。大半の授業は、先生が話して進めるのではなく、輪読方式で院生中心に進めることが多い。大体は萩原千代恵さんと２人なので、課題を中途半端になどこなせない。

今もボキャブラリーが多いとは言えないが、世新・中山・北京大学の国際交流や英米文学科が行っている English Café など、国際的な行事も多く経験させて頂いた。また、学会などにも係らせて頂いた。２年目はもっと濃くなることだろう。

私には今、人生で叶えたい夢がある。１つ目は自分の家を図書館の様にすること、２つ目は博士を取得することだ。

どんなかたちであれ、この学科に恩返ししていけたらと思っている。

金丸早希（写真中央）と
同じく大学院生の萩原千代恵（写真右）

学生の声

新聞奨学生を続けて

Saori Kamisawa　神澤 沙央里

私は新聞奨学生として大学生活を送ってきました。新聞奨学生は新聞配達をして奨学金を貰い、自立して学生生活を送れる制度のことで、アルバイトと違い定められたお休みの中で、学業との両立をしなければなりません。早朝の配達をしてから大学に行き、夕刊までの空き時間に授業を受けるのが常であり、決して楽なものではありませんでした。

入学当初は図書館司書の資格を取り図書館で働きたいと思っており、図書館学を中心に学ぶ方向で考えていましたが、夕刊やお休みの都合で思い通りに履修登録ができず、司書の資格を取るのが難しくなり悩んだ時期もありました。ですが多くの授業を受けていくうちに、情報学に興味を持つようになり、データベース、ネットワークやプログラミングの勉強をしていく中で、新たにやりたいことを見つけ、最後にはそれを就職に結びつけることができました。ドキュメンテーション学科は図書館学だけでなく書誌学、情報学と広い分野で学ぶことができる学科です。そういった学科に所属していたおかげで、図書館学にとらわれず広い分野で学んでいくことができ、新たな道が開け本当に良かったと感じています。

また新聞奨学生としてやってきたからこそ感じたこともあります。それは学費を稼ぐことはとても大変だということです。ここまで新聞奨学生としてやってこられたおかげで、大学で学ぶことができ、次のステップへ進むことができました。その苦労が報われるかどうかは未来の自分にかかっていると思います。今までの苦労を無駄にしないよう、この４年間で学んだことを生かし社会に出てからも頑張っていきたいと思います。

目標は言葉に

Yui Sugano　菅野 唯

目標を達成させる近道は、目標を言葉にすることだと思います。目標を言葉にして、誰かに話したり、紙に書いたりします。そうすると心の中で思っているときよりも、目標への思いやその内容が明確になったり、話した相手がヒントをくれたりすることもあります。

アメリカに行きたいと思い始めたのは、中学１年生の時でしたが、目標を話して笑われないか、実現しなかったら格好悪いかと、恐くて話せませんでした。

大学生になり、アルバイトで収入を得た時、自分のしたいことは、自分で決断して、実現できると思いました。そして、目標を貼り出し、友達や先生、先輩と色々な人に、留学したいと話してみると、多くの人が助言や応援をしてくれました。大学とアルバイトが忙しすぎて、何のために頑張っているのか分からなくなってしまった時、書いた言葉やもらった言葉が私の背中を押してくれました。

そして、２年生の春、アメリカに留学することができました。そこでの出会いは、更なる出会いを生み、ベルギーに行くきっかけにもなりました。目標を達成したことは、今、自信となって、次の目標に向かう私の背中を押してくれています。

だから、大きい、小さいは関係なく、あなたの目標を言葉にしてみましょう。

No.10 【ロレックス学習センター：スイス国立工科大学ローザンヌ校〔ローザンヌ、スイス〕】

Rolex Learning Center, EPFL, Switzerland

ロレックス学習センター

ローザンヌ市内を走る電車 M1 を使い、スイス国立工科大学ローザンヌ校（EPFL）の敷地内にある駅 EPFL で下車、レマン湖に向かって構内を 10 分も歩くと、巨大な波打つ建物にたどりつく。

ここは図書館に代わる新しい自主的な学びの場所として作られた最新の施設で、図書館、カフェ、レストラン、会議室、自習室、ラウンジなどがひとつにまとめられている。但し、そのまとまり方が斬新で、まるでねじれた空間のなかで繋がっている。

平坦な空間はあまりなく、殆どの床が波打っている。さすがに図書室では書架の床は平坦になっているが、その脇の床はスロープと階段になっている。どこに立っていても常に空間は歪んでみえる作りになっている。こんな館内では、はじめはあまりにも斬新すぎで目を見張りながら歩いていたのだが、30 分も館内で過ごすと、独特の浮遊感を感じるようになり、なんとなく開放された気分になってきた。リラックスしてきたのである。傾斜の廊下には自在クッションが置かれ、坂の床に座ることもできる。ある廊下ではクッションの中でものすごい姿勢で爆睡する学生がいた（強い心で写真は撮ってきませんでした）。高い廊下からはレマン湖を眺めることができ、対岸にあるエビアンを望むことができる。いろいろな意味で天国に近いといわれるスイスでは、心を穏やかにさせる風景はどこにでも広がっている。そのスイスで、リラックスと集中を高める人工的な空間を作ることが如何に大変なことであるかは容易に想像がつくだろう。それをこのような大胆な現代建築で実現しようとする意欲と、その可能性を見いだした EPFL の人たちの目利きには感服してしまう。

波打つ床

新しい図書館として学習空間を充実させることは大きな潮流であり、実は、それを先取りしていたのが鶴見大学の図書館であったのだけれども、世界の先端は、はるかに先を突き抜けていた。少年よ、書を捨てて海外に出よう。世界は狭くなったとはいえ、情報はネットから得るよりも、リアルから得た方が強く心に響いてくる。この学習センターそのものから多くを学ばせてもらった。（大矢一志）

個室（館内の時計は全て Rolex）

アクセス：ローザンヌの地下鉄 M1 の始発駅フロン（Flon）から約 15 分の EPFL 駅で下車、レマン湖側にある大学構内を歩いていくとたどり着く。

開館時間：8 月 1 日と 12 月 25 日を除く毎日　7:30-24:00

アドレス：Rolex Learning Center EPFL, CH-1015 Lausanne, Switzerland
http://rolexlearningcenter.epfl.ch/

ドキュメンテーション学科設立１０周年
記念講演会・祝賀会を開催！

本 2014 年度は、総持学園創立９０周年であると同時に、ドキュメンテーション学科設立１０周年でもありました。これを記念し、１１月２９日（土）に、記念講演会と祝賀会とを開催しました。

学長の伊藤克子先生、文学部長の高田信敬先生からご祝辞を賜ったのち、元学科教員で名誉教授の岡田靖先生と本学科教員の長塚隆教授による講演会を行いました。続いて、卒業生・在学生と、本学科教員によるパネルディスカッションを行い、これからのドキュメンテーション学科について意見交換がなされました。

その後の祝賀会では、元学科教員の堀川貴司先生や、元文学部長名誉教授内田道雄先生からご挨拶いただきました。講演会・祝賀会には、多くの関係企業の方々にもご参加いただきました。厚く御礼申し上げます。またたくさんの卒業生や在学生の顔も見え、とても楽しく、懐かしく、有意義な会となりました。

なお、それに合わせて、１０月２２日（水）から１１月１５日（土）まで、本学図書館において、第 138 回貴重書展「収書の真髄―勅撰集に関する古典籍・古筆切を中心に―」が開催されました。展示解説の執筆には、書誌学コースの教員（伊倉・久保木）に加え、本学科の専門科目「古写本演習」を受講している３、４年生、１１名も参加しました。ちょうど展示期間中に、和歌文学会という全国的な学会が本学で開催されました。それに参加した研究者の方々からも、とてもレベルの高い展示解説で、学部生が執筆したとは思えない、という高い評価をいただきました。

記念講演会会場風景

パネルディスカッション

鶴見大学・鶴見短期大学学長 伊藤克子先生

元学科教員・名誉教授 岡田靖先生

文学部長 高田信敬先生

元文学部長・名誉教授 内田道雄先生

祝賀会

退官の挨拶

本 2014 年度をもって、長塚隆先生、原田智子先生が定年退職なさいます。学科設立時からあらゆる面でご活躍下さり、学生の皆さんを、また他の教員を、ドキュメンテーション学科を、より良い方向へと、常に導いて下さいました。

その両先生に、ご退官に当たってのお気持ちなどをお寄せいただきました。ぜひともじっくりと読んで、皆さん自身の将来像を描いていくきっかけにしてもらえれば、と思います。

２月２８日の最終講義にて

新学科と共に歩んだ１１年

Takashi Nagatsuka　長塚 隆

新しい学科（ドキュメンテーション学科）を立ち上げるのでとのお誘いが、設立の一年ほど前（2003 年３月）にありました。その時には、オンラインで研究・特許情報を提供する仕事をし、情報サービス企業が加盟する協会の会長を兼務していました。新たな情報技術の進展により、図書館など情報に関わる機関での仕事で要求される能力が大きく変化していることを感じていましたので、新しい時代に対応する能力を持った若い人を育てる新しい学科に参加できることに、大変、魅力を感じました。

最初は、手探りの状況でしたが、同僚の先生方と相談しながら、また、学生の意見を聞き、学生に助けられながら、学科の内容を少しずつ充実したものに、できたのではないかと思っています。学生の皆さんと、授業や卒業論文のゼミなどを通じて、特に、ゼミの学生が企画する「夏のゼミ合宿」や「卒業論文の発表会」などで、ともに学べたことが印象に残っています。

際的な視野を持った学生になってほしいとずっと願っていました。ここ数年で、特別実習 II という、海外での「図書館や情報に関する研修」の集中授業も実施できるようになったことは、私にとって嬉しいことのひとつです。ドキュメンテーション学科の今後の新たな進展を期待しています。

感謝の気持ちを込めて

Tomoko Harada　原田 智子

平成１６（2004）年４月１日はドキュメンテーション学科の誕生日であり、私が他大学から鶴見大学に着任してきた日でもあります。大学専任教員になって１４年目の春でした。大学教員として新たな気持ちでの出発でした。日本に唯一の新学科が誕生し、岡田靖名誉教授以外は皆新たに本学に着任してきたメンバーで構成され、何もかも一からの創造でした。本学科も昨年１１月２９日に無事１０周年記念式典を挙行することができたことは喜びに堪えません。本学科が大きく成長していると感じました。

本学への就任後は、ドキュメンテーション学科の専門科目、文学部と短期大学部の司書課程の科目、夏期の司書講習の科目と、短大生から社会人まで幅広い年齢層に教鞭を執る機会に恵まれました。一方、学科創設５年目から３期６年の間、３代目の学科主任を務めて参りました。私にとって、この１１年間は非常に実り多き充実した日々であったと感じております。本学の教職員の方々はもちろん、卒業生と在学生の皆様に心より感謝申し上げます。

この３月で奇しくも本学科設立時の教授がすべて退職することになります。平均年齢の若返りによって、本学科の成長期の更なる発展と充実が図られることを期待しています。

インターンシップの報告　平成 26（2014）年度

■ 株式会社ホテルおかだ　森田 久美子

特別実習Ｉを履修しようと思ったのは、これから始まる就職活動に向けて何か行動出来たらと考えたためです。当初は書店や図書館などでインターンシップすることを志望していましたが、接客業に興味があったこともあり、ホテルおかだで実習を行うことになりました。実習期間が、８月という忙しい時期に当たっており、フロント関連の業務は思った以上に大変でしたが、積極的に動いたことで、社員の方からお褒め頂けたときは嬉しかったです。今度箱根に行くときは、ぜひホテルおかだに泊まって、自分の担当したサービスが、お客様目線だとどう見えるか、体感してみたいと思います。

■ 株式会社D-サイト　山崎 綾子

最初は不安でしたが、事前授業で「会社」について、マナーについての知識などを得て、段々不安が解消されていったと思います。学生が就職に不安を抱えるのは、働くということが分からない、知識が足りないからだと思いました。就職について学び、またインターンシップに行ったことで、就職活動に対してポジティブになることが出来ました。

■ 株式会社紀伊國屋書店　豊川 春菜

今回、インターンシップを希望した理由は二つあります。一つ目は就職する際に必要となる知識と経験を得ること、二つ目は図書館で実習をすることで、司書資格を取得する際の糧にすることです。実際、紀伊國屋書店のインターンシップに参加をしたことで、図書館や書店以外の仕事も見学する機会が得られ、視野を広げて業界を研究したいという新たな課題ができました。図書館実習をすることで、司書になりたいという目標より明確となり、大きなステップアップに繋がりました。

■ 株式会社西田書店　佐藤 寛人

最初は何となくやってみようと履修を決めた特別実習Ｉでしたが、マナー講座などの事前授業には、ドキュメンテーション学科の先生が勢揃いで、大変驚きました。それだけ大事なことなのだと、内心では焦りを覚えつつ、課題に追われながら必死に取り組みました。そのおかげで、実習先ではマナーにつまずくこともなく、乗り切ることが出来ました。インターンシップは大変でしたが、やってよかったと今は思えます。

※活動報告の詳細は学科ブログ（http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/）でご覧になれます。

□「ドキュメンテーション」第１９号をお届けします。
□ ドキュメンテーション学科８期生の卒業記念号です。
卒業生の皆さん、おめでとうございます。
□ 本年度で長塚隆先生、原田智子先生が退官されます。
学科創設から１１年間、ご苦労様でした。そして、
ありがとうございました。

ドキュメンテーション　第１９号
平成２７（2015）年３月１３日（金）
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
横浜市鶴見区鶴見 2-1-3（〒 230-8501）
☎ 045(581)1001　発行責任者：角田 裕之
学科ホームページ：http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/